

平成26年 山口市10大ニュース

1. JR山口線全線運転再開（交通政策課、観光課）

昨年7月28日の豪雨災害により、阿武川にかかる鉄道橋梁が3カ所にわたり流失し、山口線の地福駅から津和野駅間が運休となっていました。今年8月23日に、JRにより全線運転が再開されました。

山口線は、生活で利用していた市民の皆さんだけでなく、観光客やSL「やまぐち」号のファンも運転再開を待望されていました。山口線全線が再開されたことは、被災地の復興へ向けての大きな活力となり、また多くの観光客による経済効果が期待できます。

2. 消防団が「平成25年度防災功労者消防庁長官表彰」と「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞（消防本部警防課）

平成25年7月28日に発生した大雨災害における活動功績により、山口市消防団が、「平成25年度防災功労者消防庁長官表彰」と「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

今回の受賞は、山口市消防団が昨年7月の豪雨災害時に、市内全域における浸水場所での水防活動や、阿東地域での避難誘導および復旧に向けた清掃用水の配給活動、また、平川地域でのボートによる救出活動が認められたものです。

3. 市議会議員一般選挙を実施（市議会事務局）

任期満了に伴い、4月27日に市議会議員選挙が行われました。34人が就任し、5月19日に開催した平成26年第2回山口市議会臨時会において、議長に依田祐児議員、副議長に原真也議員が選出されました。

任期は、平成26年5月1日から平成30年4月30日までです。

4. (仮称)湯田PAスマートICの連結許可を受ける（道路河川建設課）

「(仮称)湯田PAスマートインターチェンジ」について、国土交通大臣から中国縦貫自動車道「湯田パーキングエリア(PA)」と市道「湯田パーキング線」の連結が許可されました。

「(仮称)湯田PAスマートインターチェンジ」は、湯田温泉を核とした観光面の利便性向上や災害時の代替道路の確保、南部地域と北部地域をつなぐ幹線道路としての役割や救急時における救命率の向上、交通渋滞の緩和といった効果などが期待でき、平成31年度に供用開始予定としています。

5. 山口テクノ第2団地が全区画完売（産業立地推進室）

山口テクノ第2団地（佐山）は、本年3社の企業進出が決定したことにより、19.3ヘクタール全区画を完売いたしました。この団地は高速道路や主要幹線道路に隣接し、交通アクセスに優れていることから、製造業や流通業が多く集積しており、各企業が立地環境を生かした事業展開を行っています。平成7年に分譲を開始して以降、17社の企業が立地し、約660名の雇用が創出されました。

6. 中原中也記念館が開館 20 周年を迎える（文化政策課）

中原中也記念館は、中也に関する資料の収集、保存、研究を進めながら、企画展や講演会などの活動を通して、市内はもとより、全国の中也を愛する皆さんに、中也とその詩の魅力を発信してきました。

開館 20 周年記念事業では、20 年の歩みの中で得られた貴重な資料や研究成果、さまざまなネットワークを生かし、地域の「学び」や「にぎわい」へと広げていくとともに、本市の重要なブランドとして、中也と詩の世界をより一層「発信」しました。

7. 山口市菜香亭が移設・開館 10 周年を迎える（文化政策課）

天花にある山口市菜香亭は、明治の初め頃、料亭「菜香亭」として創業し、井上馨や佐藤栄作など、時代を担った人々が多く集まる山口の迎賓館的場所として利用されてきました。平成 8 年に閉業しましたが、市民による保存運動により、現在の場所に移設復元されてから、今年で 10 周年を迎えました。

移設・開館 10 周年記念事業として、菜香亭 3 代目主人齊藤幸兵衛の子孫で筑波大学教授齊藤泰嘉氏による講演会など、山口市菜香亭に関連する事業を行いました。

8. 第 17 回文化庁メディア芸術祭で「スポーツタイムマシン」が優秀賞を受賞（文化政策課）

「アートと環境の未来・山口 YCAM10 周年記念祭」において中心商店街で展開した「スポーツタイムマシン」など、山口情報芸術センター[YCAM]が関わった 3 つの作品が、「第 17 回文化庁メディア芸術祭」の受賞作品に選ばれました。

「文化庁メディア芸術祭」は、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの 4 部門において優れた作品を顕彰するとともに、受賞作品の鑑賞機会を提供するメディア芸術の総合フェスティバルで、1997 年から開催されています。今回は、過去最多となる 84 か国・地域から 4,347 作品の応募があり、受賞作品展が 2 月 5 日～2 月 16 日の間、東京（国立新美術館）にて開催されました。

■ YCAM 関連の受賞/選出作品

- ・エンターテインメント部門 優秀賞
犬飼博士/安藤僚子「スポーツタイムマシン」
- ・アート部門 審査委員会推薦作品
YCAM InterLab+安藤洋子 共同研究開発プロジェクト
「Reactor for Awareness in Motion」
- ・エンターテインメント部門 審査委員会推薦作品
子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルパピリオン」

9. 学校のグラウンド芝生化へ、モデル事業開始（教育施設管理課）

小学校グラウンドの芝生化へ向けたモデル事業に取り組み、嘉川小学校と名田島小学校で芝生の植え付け作業を行いました。嘉川小学校(山田邦夫校長、158人)では6月20日に、名田島小学校(松井芳郎校長、52人)では6月29日に、全校児童と地域住民により芝の苗を植え付けました。

この事業は、児童の体力づくり、けがの防止、環境への配慮のほか、芝生の維持管理等を通じて学校と地域とのつながりがより深まることを期待し、独立行政法人日本スポーツ振興センターのスポーツ振興くじt o t oの助成を受けて実施したものです。

10. レノファ山口FCがJ3に参入決定（生涯学習・スポーツ振興課、企画経営課、観光課）

本市をホームタウンとして活動するレノファ山口FCのJ3入会が、11月19日に開催されたJリーグ理事会で承認されました。

レノファ山口FCは、地域に根ざしたチーム作りをされており、その活動が、本市の活性化につながると期待しています。

このようなことから、市報や市行事を通じた広報面からの支援を行うとともに、遠征用バスに本市をPRするデザインを施したラッピングバスの取り組みや、アウェイ会場での本市のPRなど、本市のシティセールスとしても、レノファ山口FCの支援を行いました。